

佐賀県は知的財産を



ライセンス編



株式会社アルフデザイン
代表取締役
三原 宏樹さん



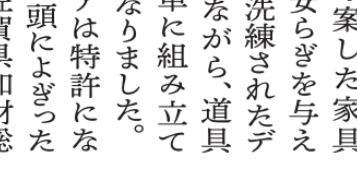
「少しでも心落ち着く場所を」 被災者への思いが生んだ家具

Danbau X Style (強化段ボール家具)

へきつかけ
ニュースが伝えた光景

建築物の企画・設計・デザインを行うアルフデザインの三原さんは、本業以外にもNPOの代表として環境やまちづくりに携わっています。「NPO活動のおかげで、昔からある建物に新しいミッションを与えて使い続ける、という使命について日々考えています」と語るように、建築家として新しいものを生み出すだけでなく、使い続けることを意識しながら活動しています。

2011年、三原さんが目には東日本大震災のニュースでした。寒々とした体育館の床にシートや毛布だけを敷いて座る光景



考案時のスケッチ、構造や組み立て方に建築の知見が活かされている

災の避難所の様子を伝えるニュースでした。寒々とした体育館の床にシートや毛布だけを敷いて座る光景

このアイデアは特許にならるものになりました。このアイデアは特許にならぬものでは?と頭によぎった三原さんは、佐賀県知財総合支援窓口があることを知り、相談に向かいました。

「設計やデザインはできても、特許のことは何も分かりませんからね。相談に行つてみたら、特許以外にも色々な知的財産があり、私たちの仕事に関係

15年に特許を出願し、翌16年に登録。同時に「Danbau X Style」の商標や意匠も出願されました。

そこで、強化段ボール製造の大手企業と出会い、展しました。

「Danbau X Style」の商標を海外の複数の国でも活用できるよう、改めて窓口の支援を受け商標の国際登録出願を行いました。「段ボールは日本語なので、日本発の商品であると名前で伝えることができます」と三原さんは話します。

何十種類もあるデザインは、案件に応じてカスタマイズも可能。SDGsの理念に沿った図書室内デザイン

三原さん。考案した家具は、使う人に安らぎを与えられるような洗練されたデザインでありながら、道具を使わず簡単に組み立てられるものになりました。

「段ボールの家具でみんながハッピーになれるといですね」と語る三原さんは期待を寄せていました。

「段ボールの家具でみんながハッピーになれるといですね」と語る三原さんは期待を寄せていました。

INPIT 佐賀県知財総合支援窓口
知財トータルサポーターの皆さん

の依頼を受けて、リサイクル可能な「Danbau X Style」のデスクや椅子、書棚などをコ-ディネートしました。また、児童施設建築の際には、軽くて怪我をさせにくい家具として採用され、このスタイルに共感した企業との代理店契約が実現しました。

「段ボールの家具でみんながハッピーになれるといですね」と語る三原さんは期待を寄せていました。

「段ボールの家具でみんながハッピーになれるといですね」と語る三原さんは期待を寄せていました。

INPIT 佐賀県知財総合支援窓口
0952-30-8191
chizai@mb.infosaga.or.jp
佐賀県内の相談・支援事例をご覧いただけます。

「佐賀県知的財産を大切にし、みんなで守り、育て、新たに生み出す条例」についてコチラ。

佐賀県 知的財産 検索

QRコード